

九州旅客鉄道株式会社 (2021 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2022 年 2 月 22 日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2277

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4510 7394

はじめに

2021 年 4 月、九州旅客鉄道株式会社（以下、「JR 九州」）はクリーン輸送とグリーンビルディングに関連するプロジェクトへのファイナンス及び／又はリファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行し（以下、「グリーンボンド」）、その調達資金を 2021 年 12 月 31 日時点で合計 5 件のクリーン輸送とグリーンビルディングに係るプロジェクトに充当しました。2022 年 2 月、JR 九州はサステナリティクスにグリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが九州旅客鉄道株式会社 グリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）¹ で設定された資金使途のクライテリアやレポートの指標に合致しているかについて評価を委託しました。

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2021 年 4 月から 2021 年 12 月の間に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標	
クリーン輸送	車両	<ul style="list-style-type: none"> • 電力を動力とする車両の新造・改造・更新に係る投資 • ハイブリッド車両の新造・改造・更新に係る投資 	<ul style="list-style-type: none"> • 適格事業の概要 • 年間の新規導入車両数 • 新型車両導入による年間 CO₂排出削減効果
	鉄道関連設備	<ul style="list-style-type: none"> • 気候変動の影響による九州の自然災害（豪雨・台風等）の激甚化対策のための鉄道関連設備の改修・更新に係る投資 • 鉄道関連設備の維持・改修・更新に係る投資 	<ul style="list-style-type: none"> • 適格事業の概要 • 災害後の被害状況 • 防災対策工事の実施状況 • 鉄道システム維持・改修・更新に係る工事の実施内容 • ホームドア設置状況（設置完了駅数／全駅数） • その他維持・改修・更新を実施した鉄道関連インフラがある場合はその設備の状況

¹ 九州旅客鉄道株式会社 グリーンボンドフレームワークは、こちらよりご覧頂けます：
https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/greenbond/pdf/greenbond_framework_202112.pdf

<p>グリーンビルディング</p>	<p>環境建物認証取得予定の駅周辺不動産・自社施設の建設に係る投資</p> <p><対象認証> LEED-BD+C (Building Design and Construction) または LEED-O+M (Building Operations and Maintenance) 認証: Gold 又は Platinum CASBEE 建築 (新築、既存、改修) または CASBEE 不動産認証: A ランク 又は S ランク BELS: 4 つ星又は 5 つ星 DBJ Green Building 認証: 4 つ星又は 5 つ星</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 適格事業の概要 • 認証取得状況 (取得予定時期・取得した認証レベル) • 環境配慮型建物による年間CO₂排出削減効果、省エネルギー効果 • 新設された建物・まちづくりによる九州を中心とした地域の活性化状況
--------------------------	---	---

発行体の責任

JR 九州は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス (ESG) とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、JR 九州のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、JR 九州の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して JR 九州から提示された情報と事実
に依拠しています。JR 九州が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、
審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会 (Sustainability Bonds Review Committee) が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果²、すべての重要な側面において、JR 九州のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書 (プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど) の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2021年4月から2021年12月の間にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表1に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	2021年4月から2021年12月の間にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表1に示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証。報告されたインパクト指標の一覧は参考資料2を参照。	審査したすべてのプロジェクトにおいて、フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標が報告されていました。	例外 (グリーンビルディングのカテゴリーにおいて、調達資金が充当された社員研修センターは、2021年12月31日時点において、改築中につき、JR九州は当該建物による年間CO ₂ 排出削減効果を報告していません。)

参考資料

参考資料 1：グリーンボンドの調達資金の充当状況

調達資金の用途の カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェクト概要	調達資金の 充当額 (億円)
クリーン 輸送	車両	<ul style="list-style-type: none"> 電力を動力とする 821 系車両の新製 電力を動力とする 811 系車両の更新 ハイブリッド車両である YC1 系車両の新製 	115
	鉄道関連設備	<ul style="list-style-type: none"> 九州新幹線防災対策 <ul style="list-style-type: none"> 九州新幹線新八代駅以南の地区において、降雨による斜面崩壊対策を実施 	10
グリーン ビルディング	—	<ul style="list-style-type: none"> 社員研修センターの改築 <ul style="list-style-type: none"> BELS 評価の 5 つ星を取得した社員研修センターの老朽化対応や設備の拡充 	6
充当額合計：			131
未充当額合計：			69
グリーンボンド発行による調達額合計：			200

参考資料 2：プロジェクトのインパクト一覧

調達資金の用途の カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェクト	報告されたインパクト指標 ³	
			適格事業の概要	その他のインパクト指標
クリーン 輸送	車両	821 系車両 新製	従来車（415 系電車）と比べ、約 70%の電力消費量低減を図ります。2019 年 3 月より鹿児島本線（小倉～荒尾間）で営業運転を開始しました。	<ul style="list-style-type: none"> • 年間の新規導入車両数：9 両 • CO₂ 排出削減効果：885t-CO₂/年
		811 系車両 更新	従来車（415 系電車）と比べ、約 50%の電力消費量低減を図ります。2017 年 4 月に鹿児島本線、長崎本線、日豊本線で営業運転を開始しました。	<ul style="list-style-type: none"> • 年間の新規導入車両数：12 両 • CO₂ 排出削減効果：171t-CO₂/年
		YC1 系車両 新製	従来車（キハ 66・67 形気動車）と比べ、約 20%の燃料消費量を削減します。2020 年 3 月に長崎地区（長崎～佐世保間）で運転を開始しました。	<ul style="list-style-type: none"> • 年間の新規導入車両数：18 両 • CO₂ 排出削減効果：572t-CO₂/年
	鉄道関連 設備	九州新幹線 防災対策	九州新幹線新八代駅以南の地区において、降雨による斜面崩壊対策として、盛土・切取区間及びトンネル坑口回りにコンクリート吹付け等を実施し、防災強度を高めています。	<ul style="list-style-type: none"> • 工事箇所数：18 箇所
グリーン ビルディング	—	社員研修 センターの 改築	老朽化対応や社員教育の環境整備・充実化を目的として建替えを進めています。研修棟や生活棟を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> • 省エネルギー効果：57%削減⁴ • 認証取得状況：BELS 評価の 5 つ星を取得

³ 九州旅客鉄道株式会社によるインパクトレポートは、こちらよりご覧頂けます：

https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/greenbond/pdf/211224_greenbond_reporting.pdf

⁴ 当該建物の設計一次エネルギー消費量（その他一次エネルギー消費量除く）の基準一次エネルギー消費量（その他一次エネルギー消費量除く）からの削減率

免責事項

© Sustainalytics 2022 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

本書は日本語で作成されました。日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020年には、Climate Bonds Initiativeにより、3年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance誌により、2年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

